

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372800215		
法人名	社会福祉法人 長寿会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地	愛知県碧南市油湊町3丁目50番地		
自己評価作成日	令和3年10月22日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsOcd=2372800215-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人内に研修センターがあり、階層別の研修や「理念について」、「身体拘束をしないケア」、「虐待防止」などの研修が行われている。法人を挙げて、職員の育成に積極的に取り組んでいる。 利用者に提供されるサービスは、利用者や家族の意向・思いを尊重しつつ、利用者個々の特性にあった支援となるよう心掛けている。サービスの質の向上のためにホーム独自にアンケートを実施し、利用者や家族の意見・要望を運営や提供するサービスに反映させている。 職員からは、管理者と職員・職員同士のコミュニケーションの良さが語られ、家族等からも「雰囲気の良いホーム」と認識されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は共有できている。	法人の研修センターで行われる階層別研修において理念の説明がある。朝礼・申し送り時に唱和して職員に周知・理解を促し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての活動と交流についてはできていない現状です。秋の祭り等の開催がされるようなら、意欲的に参加していきます。	コロナ禍以前に開催されていた地域行事やホームの行事が約2年にわたり中断している。それでも地域との情報交換は行われており、現状で出来ることに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染防止を考え外出や交流を控えていましたが、今後は認知症カフェを再開する等、検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、日頃のご利用者様の様子、季節行事などの支援を実践している写真等(資料)を作成し、伝えている。ご家族様からの意見も取り入れるようにしている。開催できない回は、書面会議にて開催。	コロナ禍で運営推進会議が書面開催となっているが、対面でも1度実施出来た。議事録に加えてホームの便りも送付しており、ホームの状況を報告するとともに、意見を頂けるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	碧南市地域包括支援センターをはじめ、市内にある三力所の包括支援センターへ「介護者教室」「認知症カフェ」等の参加等の呼びかけなど連携を密にしている。	行政(市の担当課、地域包括支援センター)は協力的であり、良好な関係が構築されている。コロナ下とは言え、必要に応じて訪問や電話・メール等で意見交換や情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会に職員が参加し、身体拘束についての理解を深めている。玄関の鍵は夜間帯等以外は原則施錠はしていません。ご利用者様の安全を考慮し、状況等によっては少しの時間帯だけ鍵をかけてしまうこともある。	身体拘束をしないケアへの取組みが積極的に行われている。ホームでの研修や法人としての研修があり、職員に対しての啓蒙啓発に取り組んでいる。拘束の一因となる職員のメンタルヘルスケアにも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会に参加し、理解を深めている。常に全職員が意識をもって対応するように心がけている。施設独自で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、全職員に運用の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係職員と連携をとり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には親切かつ丁寧に説明に努めている。特に利用料金等については制度が複雑なため、より詳細に説明して疑問点がないか再確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様及びご家族様に対して施設独自のアンケートを毎年実施し、施設運営に関することやご意見などを反映する仕組みづくりに取り組んでいる。	家族等を対象に、「居宅サービスアンケート」を実施し、受診時や物品の補充時などの機会に話を聞いている。家族との関係が良好で、電話などで意見や要望を聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的にグループホーム会議では、管理者、計画作成者、在宅部門責任者が参加し、各職員とのコミュニケーションする場として、また意見・提案を言いやすい環境づくりに努めている。	管理者は、定期的なミーティングの他にも日常的に職員と話す機会を持っている。必要に応じて個別面談を行うこともあり、職員が意見や要望を表しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の評価基準表をもとに、各職員の資質等について客観的指針に基づいて評価している。また、コミュニケーションをとり各職員の意向を柔軟に取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修強化につとめ、職員を育てる取り組みとして特に新人職員に対して独自の研修プログラムを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加はできているが、他施設との交流する機会作りが実践できていない現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等について、常に傾聴の姿勢にて聞き取りを行い可能な限り、要望に沿うように対応し、信頼関係を構築し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望をできる限り受け入れ、日頃の様子を伝えるようにしている。サービス利用前には施設見学をいただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様の状況や希望を理解し、求めている支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身に障害や疾病があったとしても、その人らしい生活習慣をできるかぎり尊重しながら、自立できるように支援することを念頭に職員とご利用者との信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様ならではの役割の支援を援助していただきながら、ご利用者を支えている。外出は感染予防の観点から自粛中である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の要望等をしっかりと受け止めて関係性が途切れないように支援している。今年度は感染予防の観点から外出支援は自粛している。	コロナ下の現在、馴染みの場所に行くなどの外出や、知人・友人の訪問などには制約が多い。アセスメントや日々の様子から、利用者の趣味や習慣を把握し、継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流する機会を作るために、レクリエーションは仲間を意識するような働きかけをしている。また、職員を含めて支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうと、連絡等する機会がないが、同法人内併設特養施設へ入所されたご利用者様などは、適時合同で行われる行事等で交流する機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や、以降に添った対応に心がけている。ご本人だけでなくご家族様とも連携協力を伺いながら適時対応している。	利用者の意向・思いは、日々の関わりの中で察知し、家族の意向については電話などで把握に努めている。会議や申し送りで職員間で共有し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握に努め、本人及びご家族様から、さまざまな機会を通じて昔生活されていたときのエピソードを尋ねるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者様の心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホーム会議にて計画を作成するにあたり、計画作成者を含めた他職種間で現状のさまざまな課題等を話し合いをし、ケアプランへ反映させている。	介護計画は3ヶ月毎に更新されている。更新時には、職員と計画作成担当者がモニタリングを行い、課題を検討しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に一日の様子を記録している。職員間でご利用者様の様子、体調等の変化に適切に対応するために、申し送りの徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族様の状況を把握し、その時々に合わせて支援ができるように可能なかぎり努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の公民館祭りへ参加していたが、今年度も感染防止のため中止となり、次年度は参加予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の多くは、施設嘱託医のクリニックへ受診しているが、専門的な治療が必要な場合には、かかりつけ医と連携しながら他医療機関への受診を適切に行っている。	利用者は、月2回の訪問診療を受けている。専門診療科の訪問診療も受診可能である。併設特養の看護師に随時相談でき、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している特養看護師に適時相談し、指示をうけたり、必要に応じて早期に主治医等への診察を受けるなどの適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーと介護支援専門員との良好な連携ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、関係者と適時相談しながら方針を共有している。重度化した場合を想定して、併設特養への入所申し込み等についての支援を行っている。看取り支援体制については、まだ充分ではない。	ホームの方針で看取りは行っていない。入居時に利用者・家族等には説明している。利用者の重度化時には家族等に説明し、適切な施設への移行支援を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法の研修会を行っている。特に、初期対応についての訓練(AEDの操作等)についての訓練に重点を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。可能なかぎり、ご利用者様も参加した訓練を実施している。	定期的な法人合同の防災訓練(避難訓練)が行われている。ホーム内で緊急時の対応について研修が行われ、職員に周知している。災害時の電源については検討中である。	災害発生時の地域との協力体制については、継続した取組みが必要であろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけと温かい気持ちで接するように心がけています。	接遇や人権擁護、プライバシー等についての研修があり、職員は利用者を尊重した対応を心掛けている。職員同士で、不適切な対応がないかフォローしあいながら利用者と接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様からの要望を行事等に反映できるように、各職員と全ご利用者様が信頼関係を構築できるように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の思いを尊重した対応をしているが、時に職員側の都合により、希望に添わないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の意向に沿うよう確認をしながら、身だしなみを整えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるように、ご利用者様と職員が可能な限り一緒に食事準備(片付け等を含む)を行っている。ご利用者様の嗜好も考慮した献立としている。	食事に関しては、利用者が出来ることを手伝いながら、職員とともに配膳している。誕生日会や季節に因んだ食事が提供されており、利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量等の把握に努めている。便通をよくする作用としてヨーグルトなどをメニューに取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいを実施。就寝前には、歯磨き、入歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを把握し、自立にむけての排泄介助に心がけている。	排泄支援に関しては、自立度の高い利用者には確認・見守りに対応し、個々の状態に合わせた支援を行っている。職員は羞恥心・プライバシーに配慮し、トイレでの排泄が維持出来るよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、食事メニューの工夫と、ヨーグルトなどの便通によい食品をとるよう献立の配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は原則9時半から行っている。時に行事等や職員の配置状況によっては、適切な入浴支援がきびしい場合がある。	週3回の入浴機会を提供している。拒否があった場合は無理強いせず、声掛けのタイミングや日にちを変更するなど、利用者の意向を尊重して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の個性を尊重した対応をしている。夜間帯の巡視を約1時間ごとに行い、安心して良眠していただけるように適時声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が全ご利用者様がどのような薬を服用しているかを情報共有し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を的確に把握してそれぞれの役割ごとに活躍していただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1人ひとりの希望に沿った外出支援は現状できていない。外出の機会としては、ご利用者様全員で外出する機会があるが今年度は感染予防の観点から自粛している。	コロナ禍であり、積極的な外出支援とはなっていない。散歩は最近再開しており、法人主催のイベントに参加している。利用者の気分転換を図るため、出来るだけ外気に触れる機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、原則ご家族様にお願いしている。必要に応じては、施設側にて金銭の立替をすることもある(受診代等に限る)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば、電話をしていただいている。手紙については、現状やり取りするまでに至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースについては、ご利用者様の意向を取り入れている。季節感を感じられるような雰囲気づくりにも配慮している。	居間・食堂といった共有空間は職員が清掃しており、中には一緒に行える利用者もいる。季節の飾りや花が活けてあり、利用者が穏やかに過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は普段は共用スペースであるリビング(ソファー有)にて過ごされているが、1人になりたいときなどは席の移動などをして、お互いに過ごしやすい環境をつくるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力のもと、自宅で長年利用されていた本人様のなじみのある家具等をできるがぎり居室に用意していただいている。	家具や調度品の持ち込みは自由である。居室の片付けは職員がフォローして清潔を保っており、利用者が落ち着いて過ごせる空間となるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室内にトイレが設置されていて、階段、廊下には手すりが設置している。また、階段の上り下りの負担軽減を目的として施設内にエレベーターを設置し、必要に応じて利用している。		